

令和元年度第2回御宿町生涯活躍のまち推進協議会 会議録（令和2年1月16日実施）

開会

1 委員長挨拶

2 町長挨拶

3 議題

1) 令和元年度事業における実績とKPI(数値目標)の進捗状況について

2) 令和2年度における地方創生推進交付金の実施計画の内容(案)について

議事録

1) 令和元年度事業における実績とKPI（数値目標）の進捗状況について

企画財政課事務局長 令和元年度事業におけるKPI（数値目標）について説明

保健福祉課長 令和元年度の実績状況について説明

教育課長 //

産業観光課長 //

企画財政課長 //

副委員長

生活支援・支え合いと多世代交流の仕組みづくりのところをお伺いしたいと思います。交流拠点およそ4ヶ所分最初の目的だったんですが、これは全部めどが立ったということで寄茶場、ふれあいの家というのは、盛んな交流が行われて、また、名称がないのでとっても困るのですが、白鳥丸の駐車場にある建物というふうにはしかないので、これから名称を早くつけてほしいなと思うのですが、ここでも地域おこし協力隊が、人的な交流を活かして色々なものの催しがあって、非常に良かったなと思っています。周知なんです、寄茶場は実谷・七本の住民の方だけではないんですね、対象は。ただいつ行われるのか非常にわかりにくい。ふれあいの家の場合は、オープンしたときに新聞でも取り上げていただいて、毎週土曜日10時から4時ですよ。でも民生委員の会議でもなかなか伝わってないんですね。情報を周知するために、御宿町の広報のお知らせ版とかを利用なさる計画はありますか。全町的に利用できるのに、地域の人しか行けないのかなという思いがあるようなので、そこをお尋ねしたいと思います。

保福課長

寄茶場につきましては、地域でのつながりをもう一回見つめ直してみましようというところが一番最初でありましたので、地域が中心となって、地域の中でどのような活動ができるかということ、いろいろ進めてきたところです。ただ、ご提案のように全町的にということもありますので、主体になっていただいているのが地域の住民の方が現在やっていたところはありませんので、そういった中で運営に関して、三育さんとか地域の皆さんと相談しながら、どういう風に展開していくかというのを進める上で、検討させていただければと思います。すぐに広報に載せるという形は今のところはまだ考えていませんが、地域の方々が自分たちでチラシを配って、今度こんながありますよということも実際にやっていますので、そういった中でどこまで広げていくかというのを相談しながら、進めていければというふうに思っています。ふれあいの家につきましては、広報等について、今後その辺も実施しているところと相談しながら、広報のほうに紹介させていただきたいという了解を

とりながら、進めていければというふうに考えております

企財課長

ただいまのふれあいの家の広報についてですが、広報の所管が企画財政課です。これにつきましては、町も支援しながら行っている事業ですので、どういうタイミングで載せるかというのは、ふれあいの家の方々と相談しながら、広報などで紹介していきたいと考えています。

委員

副委員長の意見と重なっちゃうかも知れませんが、今実谷地区で行われています寄茶場の事業は、実績的に結構いろいろなことをやられており、結構なことだと思っております。しかし、三育学院と共同でやっていて、三育学院との共同が、いつまで続くのかによって、継続性がどうなるのかというところが懸念されるところがありまして、例えば産業観光課で携わっているオリーブの関係だとかオリーブ研究会という会を作って、運用されているようですが、この寄茶場のほうも組織作りをして、例えば三育学院の助っ人がなくなった場合でも、何か計画していけるようなことができればどうかなと思ったので、意見として言わせていただきました。

保福課長

寄茶場につきましては、おっしゃるとおりその担い手づくりというところで非常に課題があるんですが、事業実施の時から最後まで三育さんがいるわけというか、お手伝いをずっとやっていただけるわけではないので、最終的には自主的に活動をするような意識付けを、みんなで話しながら進めているところです。できるだけ地域の方にバトタッチがスムーズにできるような形で進めていければというふうに考えているところです。

委員

それで他の全町の中でいくために、その組織作りができることによって、全町に広げるにも非常に楽になるんじゃないかなという考え方があろうかと思えます。それから、この補助事業が、令和2年度に完了するというのを聞いていまして、その後地域の包括とかいろいろ事業がありますが、これについては町の補助事業として、継続されていく可能性があるかどうか、その辺を教えてください。

保福課長

補助事業についてですが、今町の方で補助金のさきほど紹介をさせていただいたふれあいの家について、サロン活動の補助金要綱というのを作っておりますが、こちらは地域再生計画の期間でということで、要綱は整備をさせていただいています。ただこういった事業については、高齢化とかそういったものが進む中で不可欠な話になってきますので、いろいろな現在の事業の実施状況を見ながら、補助金を継続していくのかということについては、内部で協議しながら進めていきたいと考えております。

委員

できるだけ事業の継続については、補助事業が終わっても進めて継続して実施できるようよろしくお願ひしたいと思います。

企財課長

ただいまの委員のお話ですが、これは根拠としていえるのが、まち・ひと・しごと総合戦略で地方創生事業の一環でございます。第1次地方創生が、平成27年から平成31年度ということで5ヵ年計画で今年度いっぱいということで終わりになるんですけど、第2期ということで、第2期をやることは国が示しております。町のほうもその総合戦略の焼き直しをすることになっていて、当然そこには財源が必要になりますから、国も何らかの補助金を創設されていると思うんです。結局これも息の長い仕事でして、一朝一夕にガラッと良い方向に進むかということ、そうでもありませんので、この点につきましては引き続き

町といたしましても、交付金の申請をして、町に無理のないところで事業が進められるようにしたいと考えております。ただ次年度以降の事業については、まだ申請もしていない状況ですので、国の採択になるかどうかは分かりませんが、努力して参りたいと考えます。

委員

先ほど町長の方からお話があったと思うんですけども、新町の家具屋さんの跡地を交流の場に使うということで、老人ホーム外房としまして、毎週木曜日を交流の場として、うちの職員を配置して開催をしていきたいと思っています。うちの法人が関わることで、継続性というところも賄えるのかなと思うのですが、その点そのような形でよろしいのでしょうか。

保福課長

新町の朝市通りのところの使用形態ということですが、今のところ整備をしている状態です。外房さんの方から、こちらのお話を前々からいただいていますので、継続的に毎週木曜日に、こういった形でやっていくかということを決めさせていただいて、その中で今後のやる事業など詰めた中で、決定していければと考えております。

委員長

私の方から、先ほどから継続ということに関しての不安というか、先行きどうなるんですかというような質問がありましたが、この事業そのものは、国の政策による補助事業ですから、行政ですので、なかなかはっきりとした約束はできないだろうと思いますが、民主的な計画の中でこの事業がまた認められて、継続できるような、そういう形態を作っていくと。それには行政だけではなくて、それに関わった地域の人たちも努力してもらおうという形の中で継続は力なりと申します。10年、20年、30年と歴史が刻まれていくような事業にご協力をいただかないと、なかなか地域の人たちも10年前は、足腰が丈夫だったけど、今は足腰もたたないよ、耳も聞こえないよ、もうボケてるよという時代が必ず訪れるわけです。ですから、そういうことが繰り返される中においても、引き続き元気に継続できるということをぜひ考えて、しっかりと進めていただければと思います。なかなか大変な事業だと思いますけど、色々あってやっと報告があったような事業が立ち上がってきてるなと思います。

ほかに質問がなければ、次の議題に進みたいと思います。

2) 令和2年度における地方創生推進交付金の実施計画の内容（案）について

保健福祉課長	令和2年度の実施計画について説明
産業観光課長	〃
企画財政課長	〃
教育課長	〃

委員

実施計画ですから、これはこのとおりの意見をいうところはございませんし、最初のほうの今までやってきたサロンとか寄茶場とか、いろんなことをやってきておりますし、それぞれの課から報告があったとおりで、これについてはこれをさらに進めて先ほどから意見がありましたとおりで、どう継続していくのかというのが、これからの課題だというふうに思いますので、それはそれで良いのですが、1つだけ私がずっとこれを見せていただいて、地方創生とCCRC、この会議はCCRCということで我々は集まっていると思うんですが、この中には、ほとんど地方創生全体が入ってきていると。CCRCの本来の目的は、

日本版C C R C構想というのがあるんですけども、都市部から高齢者がリタイアされた方が地方に移り住んで、そこで元気に暮らしていこうと同時に、必ず年を重ねていきますから、60代の方は70代になり、70代の方は80代になると。必ずそこには健康上の問題が発生します。こういう人たちが、例えば御宿という地方に住んで、ここでそういう状態になったときに、医療・介護・看護、こういうものを御宿の住処を変えないで、ケアしてもらえるとというのが、私のC C R Cの本来の目的ではないのかなと思うんです。今サロンの問題がありました。これサロンに行ければまだいいんです。そこから先が問題だと。特に今サ高住（サービス付高齢者住宅）の問題がありましたけれども、このサ高住の問題が、事業家が、御宿町をマーケットとして、市場として認めなければ来ないわけですから。今日実は大多喜に新しいサ高住ができると新聞にチラシが入っていましたよね。その業者をネットで調べてみたのですが、東京都に本部があって、千葉県のあちこちに作っているということで、サ高住の経験を持っている、それ1本でやっている業者ですね。経営者を探そうと思ったんですけども、なかなかネットで出てこなかったんですけど。それはそれとしておいて、サ高住を引っ張ってくるというのは、非常にそういう点で事業性がないとなかなか難しい。ですから私は今御宿町で高齢者ケアができるのは、やはり在宅的な医療と介護と看護と。今日はこのメンバーの中に専門の先生、先生をはじめとして、4人ほど出席されているわけですから、メンバーとしてはそろっているのですが。ここらあたりにもうちょっと焦点を絞ってですね、といいますのは、こういうものをこれからやっていくとした場合は、関係者、いわゆる先生もいれば看護師もいれば薬局もあれば介護の専門の方々も必要だし、あるいは総合病院との関係もあるし医師会との関係もあるし、そういう総合的なものを、理解と納得をしていくのには最低は2年かかると思います。2年や3年は。だから私は今までやってきたこれについては、このまま継続性を考えて進めていくと。さらに拡大していければいいと思うんですが、もう一つ本当にC C R Cを考えるのであれば、医療・介護・看護的なものについて、私は町長の諮問機関である、この委員会で取り上げて予算ではなくて、計画を取り上げるということが必要ではないかなと。今日の議題は予算化ですから、ちょっと的はずれかもわからないのですが、せっかくこういう機会ですから、是非、もう一度本当にここで医療的なケアが、もう1年1年医療的なケアの必要がある人が出てきているわけですから、それについてこの席でそういう議論をする必要があるのではないかと、意見を言わせていただきたい。今日は予算化だよという事は承知していますので。

企財課長
町長

議長。関連する資料をただいま配布いたします。

先程の中で、地域包括ケアシステムの構築という内容がございましたが、今委員からも意見をいただきましたが、これからの1つの重要課題と申しますか、最も考えていかなければならないことの1つとして、地域包括ケアシステムと今後の医療介護施策の充実を目指した連携をどうしていくかということが非常に大事であります。それで今資料をお配りさせていただきましたが、本日委員が欠席しておりますが、この方長野県の佐久大学の教授をやっておりまして、皆様お耳には達していると思いますが、佐久市というのは、非常に全国的に地域医療の先進地として言われております。そういう中で、委員から、欠席

でございますが、ご提案といいますか、ご助言いただきまして、このような資料を昨日送っていただきました。昨日と言うことでしたので、準備があまりできていないんですが、一応資料として配布させていただきました。今後かなり先進地として、素晴らしいことをやっているということでございますので、なかなか御宿町と比較した場合、規模とか内容がかなり相違するところがあると思うんですが、非常に参考になるのではないかと思います。そういう意味で、今後視察等も視野に入れながら検討していきたいと考えております。今委員にご指摘いただきましたように、地域包括ケアシステムと今後の医療・介護の仕組み作りをどうしていくかということに、やはり、今後とも私たちの考えを広めていかななくてはいけないのではないかと考えております。また既に会議が組織されている、今まであったようですが、年に2回位の今ご指摘があったような、医師の先生方と例えば薬剤師のみなさんとかあるいは介護関係の皆さん、地域福祉協議会の皆さん、そういう方々がメンバーに入りました会議もありますので、できるだけそういった会議の連携を深めながら、協議をしながら徐々に進めてまいりたいなと思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。資料についてはまたご参考にしていただければと思います。

副委員長

私、民生委員としてこの会議のメンバーになっております。CCRCの会議が始まりました時に、皆さんで議論したと思うんですけども、CCRCという言葉自体が住み続ける町ということなので、終の棲家として御宿台はもちろんCCRCのモデル地域みたいなもので、都会で定年を迎えた人が移り住んでいるわけなんです。それで終の棲家と思って住んでいたけれども、民生委員が担当している方々、年年歳歳本当に同じじゃないんです。1年間同じ状態でなく、御宿町から出て行かざるを得ない。施設であつたりご自分のお子さんの近くであつたり。そういうのが現状なので、委員の今のご提案に本当に大賛成です。ここに計画されているものは、もちろん一つ一つが大切なことなのですが、CCRCの推進という意味では、やはり終の棲家となりうる御宿町という視点を、もう少し盛り込んでほしいと思っております。サ高住のところでも、調査用実施委託料というコンサルの委託ですかね。もう少し踏み込んだ、すばらしい先生も熱意を持ってくださるんですから、一步踏み込みましょよという感じがしてなりません。どうぞよろしくお願いいたします。

委員

今地域包括ケアの部分で書かれているんですが、御宿で必要なのは救急ですと塩田病院と亀田病院になっている。塩田病院はこの地域の約7割、いすみ地域の約7割が救急搬送を担っている。塩田病院は地域の救急を担うご覚悟でいろいろ活動されている。3割が亀田病院です。塩田病院が非常に活躍されているんですが、この地域、例えば御宿台のご意見を聞くと、本当に救急といった場合に塩田病院、亀田病院を使うんですが、ちょっとしたことで、何か困ることがあったときに、特に時間外・夜間とか休日の時に、どこにどうしたらいいのかわからないというようなことがある。ですから1つは医療に関して言えば、もう少し塩田病院とか亀田病院に行く前のワンステップ、身近な所のアクセスが必要なんだと思います。そういう意味で、私ももうちょっと20若ければすぐやっちゃうんですが、ちょっと悩んでるところがあつて、その要望は私の患者さんでも段々強くなってきてるんで、時間外と休日に関しては何かしなきゃいけないかなあと思っているんですが、この地域には医療機関が3つあつ

て、私と田口さんとラビドールさんで、この辺のところでは少しそういうところの考えを、もうちょっと地域住民の方の身近なところのアクセスが時間外でできないかという部分も考える必要があるのではないかと。ですから医療に関して救急はもちろん塩田さん亀田さんにメインになっていただきたいんですけども、もうちょっと簡単にアクセスできる部分の構築が必要かなと思っています。それから、サ高住は非常に大切なもので、介護の部分で言えば基本的にサ高住が非常に強くなってくるだろうと思うので、そういうところの計画みたいなもの、委員がおっしゃったように役場の方が推進していただけたらなというふうにしています。ですから医療の面でいうと身近なところでアクセスする方法を考えることが必要であるということと、介護の面でいうと、もう一つ特養とか老健とかいろいろあるけれども、サ高住も視野に入れてアクセスできたら、この地域にかなり良くなるのではないかなと思っています。ちょっと補足させてもらいました。

委員

1番最初からCCRCに入っていたわけじゃないですけど、途中から商工会長として参加した中で、僕の記憶の中では1番最初の出だしがCCRCの生涯活躍のまちは、サ高住を始め介護在宅医療だとか、その辺の構築のどちらかというところハード面が先行して、来年度のこういうソフト事業に変更になったということが、私の頭の中にあるんですけども、佐久市ですね。さつき町長も言いましたけれども、僕同級生なんです。非常に優秀な女性なんです。それはそれとして、今日の会議で令和2年度の計画を事務方が出してきた中で、いきなりまた3年前のこのサ高住の方に、また戻すのかという、その辺の違和感がちょっと今思ったんですね。これが決して悪いわけでもないし、当たり前なこと、今まででもこれをやらなくてソフトできていて、またここに戻るということは、また事務方の方でも混乱しなければいいんですけども、実際問題僕も今工学院大学の先生と色々定住のあり方について、学生を踏まえて毎年研究している中で、やはり今1番感じている事は、役場と組んで、物事をする。そこにまた国が入ると、なかなか補助金とか考え方の市民とのやり取りとの全く違う世界があって、やりにくい面もあって、先ほどもウェブの構築のただそれを変えるだけでも相当な時間を要してしまう。事業計画というのは立てても、その中でやはり違うことが起きてきて、それを改善しながら市民だとスピードを上げてできるんですけど、物事を1つを変えちゃうとまた遅れちゃうと、そこが進まなくなる危険性もあるで、佐久市ですね、すごい有名なところなので、これはこの会議でどうのこうのと言うよりも、まずは、もしこれやるんだったら、先陣を切ってやはり町長なり事務方の方で、ある程度まとめてから、テーブルにあげないと、ちょっと今これを今年度ソフト事業がどれぐらいの進捗率で進んでいるかというのも後で聞きますけれども、1年前40数%しか執行率ができなくて、2年目はどうだったんだと。これがきちっとできてない中で、今度はまたサ高住のソフトならいいんですけど、御宿に関していえば先生のいわれたとおり、大学があるわけでもない。病院といたら先ほどおっしゃられた通りの身近で、ないものねだりはできないので、やはりその辺は慎重にやっていかないと計画自体が崩れてしまうので、じゃあ3年目は何がメインだということがわからなくなってしまうので、その辺はちょっと整理してから、こういうものを出してもらわないと全く今の時点では我々もハテナがついてし

まって、その先進地の事例というのは、やはりリゾートにしてもこういうところにしても素晴らしいことなんですけれども、テーブルの上に載っていて、そこにさあ行こうというんだったらいいんですけれども、ただ行っていいものを見てきて、御宿に帰ってきてがっかりしてしまうと、そっちもちょっとマイナス面になってしまうので、その辺をもうちょっと整理していただけたらと思っています。本年度はどのくらいの進捗率、あとまあ2ヶ月ですけど、どれくらい達成できるのか、その辺だけちょっと教えていただければと思います。

企財課長

ただいま達成率のお話が出ていますが、年度の後半ではございますが、まだ最終的に終わっていませんので、今のところまだ進捗率というのは大変申し訳ないですが、お話しできるような数字はただいま持ち合わせていません。また、ただいまのお話の中で、もともとCCRCはサ高住がメインだったんじゃないかというようなお話もあったんですが、最初は国交省の関係でやはりCCRCイコールサ高住という事だったんですけど、どうしても関係者とか関係機関が多すぎまして、諦めたわけじゃないんです。ただ進まないだけなんです。この辺を先ほど先生のお話の中で、救急医療の前段階ですよ、時間外や休日の医療をなんとかしたいというようなお話をいただいていますので、最初から何もかもできるということでは無いので、その辺は確認させていただきます。こちらのほうも一足飛びに進むようなサ高住とか在宅医療の話とかも進むとは思っておりませんが、少しずつでも進むように内部でも協力しながら、もちろん先生とか関係機関のご協力をいただきながら進めていきたいと考えますので、どうぞよろしくお願いします。

委員

私が言いましたのは、今日の会議は予算化の問題ですから、これは承知していますと言うことです。ただコンセプトについて、この御宿版CCRCについての資料は、町民の方にも配ってあるわけです。それを期待しているわけです。何を期待しているかと言うことは、今先ほど申し上げましたとおりです。ここで住み続けたいんだと言っているわけです、町民の方は、高齢者は。特に私は御宿台に住んでいますから、御宿台は今千四、五百人もいるわけですね、定住者が。その人たちも60前後で来ているわけで30年経っているんです。70代どころか80代の方がどんどん出てきているわけです。昨年も私が知っている中で6世帯の方は、もうここでは住み続けられない。足の問題と、医療・介護の問題で住み続けられないから、千葉だとか東京だとか、サ高住を探してそこに行っているんです。あるいは子どもの家に行っている方もいるわけです。私も日常御宿台の中に住んでいますから、そういう話が、会えば話をされます。いつできるんですか。いつそういう体制を作ってくれるんですかというのが実態なんです。ですから私は今在宅医療・介護とかそういうものにスタートしても、考えても、2年や3年がかかるんです。調整するのに、お互いが納得しあうのに。実際今スタートしても、実行できるのは3年先だと思うんです。ですから私は、この今やっているソフト面については、このままどんどん進めて、元気な人がもっと元気に、1年でも2年でも健康寿命を伸ばせばいいわけです。これはこれで必要だと思います。喜んでいる人がたくさんいますからね、今御宿台のサロンを作ってから。ただ問題は、このCCRCのこの会議で取り上げなかったらどこで取り上げるんですか。今町長の諮問機関、地方創生の諮問機関はここしかないんです。だから私は何らかの形で、今商工会の会長がおっしゃっ

たけれども、別の形でもいいから、そういうものにタッチしていかないと、今タッチしても、今取り組んでも、実際に実行できるのは2、3年かかるということが、こういう問題がある。難しい問題です。千葉県内の最高高齢の町であるし、はっきり言って私の住んでる御宿台は、その中でも最高の高齢者数であります。是非そのところは理解いただいて、この問題を進めることは、どんどん進めていただかなきゃいかんと。我々も協力しますが、同時にもう一方、本当のCCRCのコンセプトを提案すべきではないかなと申し上げたまでです。よろしくお願ひします。

町長 ちょっとだけ付け加えさせていただきますが、今委員からありましたCCRCの基本コンセプト、基本理念は変わりません。幾分か認識はずれるとは思いますが、ソフトの先行する、この事業の手書きの部分が、ソフトが幾分か先行している、これはそのまま続けましょうと、今委員がおっしゃられた通りなんですが、同時にやはり医療介護対策、地域包括ケアシステムの充実というのは、基本コンセプト、基本理念の中でいってますから、それは全く変わらないと思っていますので、その辺はご理解をいただければなと思います。今日はいろいろなお意見をいただきましてありがとうございました。

委員 国に変更届を出すので、我々もどのくらい、それが役所のほうもわからないと思うんですけど、やってみてやっぱりこうしますよというのが、すんなり受け入れられるのか、意外とハードルが高いのか、その辺だけ最後にお伺ひします。

企財課長 交付金の内容変更につきましては、かなりハードルが高いと感じています。軽微なソフト事業の中でソフトにするとかというところが、ある程度担当者によって柔軟に考えてくれる人もいるんですが、特に施設関係とかハコモノ関係ですね、ソフト事業のお金をハード事業に使うとかそういうことについては、厳密にノウと言われてしまうので、ものにもよりますが、後は作文の仕方という所も多分にあるんですが、ちょっと一筋縄ではいかないなと感じております。

委員 ウェブの東洋経済新聞のコラムを書いている木下斉さんという方を毎回見てるんですけど、今全国で起こっていて、1番の問題点が、その辺のところで変更したくてもできなくて、ドボンしちゃうみたいなところが大きいんで、その辺は先陣を切って作文をうまくやって、補助金を取るための事業ではないので、あくまでもこちらが主体で補助金をおまけとして考えないといけないんですけども、地元の人達はどうしても作文、そこが肝心になっちゃうんですけど、我々現場にいて目の当たりにして進めていかないといけないんで、難しいところはお互いに共有していきたいところで、良い方向に進んでいければと思います。

副委員長 先ほどの私の発言で、サ高住を早くしてくださいねって言ったわけではないんです。地域包括ケアシステム、今町長の話聞いて力強く思ったんですけど、現実的なのは、在宅内なんだと思うんです。御宿台は、家にいてそのまま住み続けたいという希望が1番多いので、先生それから外房さんの力を借りながら、在宅で住み続けられる、そういう風な方法をぜひ早く考えてほしいというふうに願っております。サ高住にこだわっておりませんので、ちょっと言い間違えたかなと思って訂正させていただきます。

委員 今回から参加をさせていただいていますが、私このCCRC事業の絡みとい

たしましては、実谷に住んでおりますので、実谷で続いてきている寄茶場に、少し協力というか参加をさせていただきながら、今日も実は午前中その打ち合わせというか、今後どうして行こうかと言う話し合いが持たれて参加してきたところです。全体の話をついてきて、委員の方から寄茶場も今後の継続体制、推進体制、それからこれからやっていかなきゃいけない地域包括ケアシステムのほうも、共通するのはやはりどういう体制で推進していくのかというところで、もっと言うとながら私が寄茶場で、関わりながらすごく感じてきた事は、やはり結局は人、キーマンというかですね、人事ではなし、人頼みではなし、俺がちょっと一肌脱いでやるかという人が、どのタイミングで出てくるかで、その方をどういう人たちがサポートしていくのかというところが、結局そこに行き着いちゃうんだなというのが、すごく実感しています。今日の午前中でもそうでした。これから三育さんに、おんぶに抱っこ、あるいは役場の福祉課の方にも、おんぶに抱っこで、今まで実谷の活動は続いていたというのが実情です。そのままじゃいけないよねというのも、当事者たちはみんなわかってるんですが、じゃあ俺が、じゃあ私が、今後は引っ張るよと言う一言がなかなか出ないで、苦しんでいるというのが現状です。私が申し上げたいというか、皆さんと知恵を出し合いたいなあと思っているのは、やはりそういう方を、いかに探すというか、多分こうやって皆さん各方面で動いていってらっしゃれば、この方だったら、あるいはこの方たちだったらというような人が、この公式な会議の場の外にもきつとたくさんいらっしゃる。そういう方たちをどういう風に、例えば勇気づけるといふか、こういうサポート私たちしますから、ぜひ、こういう場を持ちませんかとかですね、そういった形での後押しとかサポートというのでも1つ、もちろん我々もやっていかなければいけないですし、町の担当課、各分野にいらっしゃる各担当課さん、あるいは町長含めてですね、そういったことも1つ意識を持っている必要があるのではないかなと感じました。そのあたりを含めて町としてはいかがでしょうか。

企財課長

おっしゃるとおり、担い手づくりが重要なところで、コンセプトでもあります持続可能なまちづくりというのは、人がやっぱりキーとなる人、その人材確保が非常に難しい状態です。ただ今回ふれあいの家なども自発的に御宿台の方が始められたので、こういうところを少しずつ参考に、町内のあちらこちらに飛び火していけばと考えています。ただ消極的に自然に出るのを待つというのではなく、補助金なども作って、後押ししながら進めたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

委員

特にソフト面というか寄茶場のような活動は、元々少し在宅とかサ高住とか絶対欲しい、なくちゃ困るよねというような要望がある話とは、また毛色が違うなと感じていて、多世代交流の場が絶対必要だと、例えば私が住んでいる実谷区の近所の人たちが絶対欲しい、なくては困るという声は、多分なかったんじゃないかなと思うんですね。でもこういう取り組みの芽があるから、ちょっとやってみませんかという申し出を受けて、実際ちょっと恐る恐るスタートしてみたら、思いのほか楽しい。子供たちもお年寄りも今までなかったふれあいが生まれて、みんな笑顔が見れるということで、やってみて初めて実感するというような部分が、この地域のいろいろな交流を持つという部分が、実は結構大きいんじゃないかなと。そういう意味では新しい価値観を創造するというか、

提案するというような側面もあるとすれば、今こういうことが始まっていて、これすごく写真入りで、今回寄茶場の資料を作っていたのですが、こういう情報発信をしていって、こういうことも横展開、委員もお話がありました実谷だけでやって終わりとか、あるいは実谷だけで続いていってもしようがないというような中で、情報発信、情報共有というところが、1つ大事なかなという意味では、うまくいかなかったこのウェブの方なんかも、あまり大層なシステムにお金をかけるよりは、運営というか、日々寄茶場だけじゃない、御宿台のほうも始まります、他のところもいろいろ始まりますっていうこと、それからあるいはこれからサ高住を含めた地域包括ケアシステムのほうも、何らかの形で動き出す、あるいは動き出したけれど、なかなか苦戦していますというようなことも含めて、こまめな情報発信をしていけば、ああ私興味があるから、ちょっとそこに参加してみようとか、私ちょっとアイデアあるんだよとか、ちょっと知り合いで強い奴がいるんだよとかっていうことで、いろいろなことがつながって、始まっていくのではないかなという意味では、今あるサイトの更新というような話もあったかと思いますが、そういった1回更新して終わりとかっていうのではなくて、今始まっていること、これから始まること、苦戦していることを含めた、リアルタイムな情報発信っていうのに、お金が使えたらいいのかなというふうに感じたので、最後にそれを付け加えさせていただきます。

委員長

年1回か2回しか開催されない会議でございますので、時間が過ぎていますが、ご質問があれば受け付けますが、無いようですから、私から1つ教育課長にお聞きしたいんですけれども、来年度から小学生の授業が変わると。内容が多くなって、なかなか大変なんですということですけど、そういう点は、もうすでに校長先生あたりからも私らも聞いています。来年度の課外授業ですか、運動会とか磯観察とかそういう時間が取れないような状態になるんですというお話をちらっと聞いたことがあるんですよ。あの運動会なんていうのは、地域の住民と子どもが一体になって、コミュニケーションが取れる立派な行事だと思うんですよ。それらがやれなくなるような授業内容が、変わってきたという事のお話を、聞いたんですけど、そういう形の中で、教育課とすれば、国の政策ですから、なかなか変えられないと思うんですけど、そういう先生が、努力によって続けられるのか、それともダメなんですよというふうになるのか。すでに父兄の間なんかでも、大変だよ、そうだったらどうなっちゃうのとかね、1年に一遍子供と一緒に楽しくする運動会はなくなっちゃうのという意見も聞いたりするんですけど、この場でお聞きするようなことではないんですけど、そういう授業になっていると、先ほど説明をされたから、教室の中だけの教育になっちゃうのか、教室から出た社会教育、環境教育が受けられないのか。それらは大事で心配されてるんですけど、どうなんですか。

教育課長

中学校のほうは、現時点で指導要領の新しいものが施行されないの、大きく変わらないんですが、小学校、特に高学年は、週休2日制が変わらないので、授業実数が変わらない中で、英語が教科になるということで、それだけで単元が増えることとなるんですね。あと科目としては増えないんですが、例えばプログラミングをやらなくちゃいけない。その中にはこういう授業を使ってやらなくちゃいけないというのは、確かに増えていて、実際問題近々なんです、

英語の授業を1単元増やすには、正直空いてる時間がないので、どうしようかというところが大きな問題になっています。その中で地域によっては行事を中止する、縮小する、そういった自治体も出てきているのは事実です。今学校の方と教育委員会の方の話の中では、運動会もそうですし、中学校でいえば、いろいろな海洋授業であったりとか、そういったものは、地域の方と触れ合える貴重なところでもありますし、地域の素材を使った学習というのは、大切な授業ということでの認識では一致しておりますので、できるだけそこに時間を割くのではなく、何とかそれを維持しながらということの中で、種目の見直しであったりとか、それをすることによって、通常の授業の練習時間が削減されると、教科の学習にあてられるとか、そういったところを、今1つずつ見直しをかけている中で、例えば中学校でやっている評価を2学期制にする、通知表を2回にするだけでも7月ギリギリまで授業がやれる、そういったことで授業実数が取れるということもあるので、今やっているCCRC事業だけじゃなくて、通常の学習の中の渚マラソンであったりとか磯観察であったりとか、乗船体験というのも、御宿小、御宿町の学校の特色の1つですので、それを残せるような形で、今計画を見直しているところです。いろいろな地域の高齢者の方が学校に来て、例えば前回運動会も房州御宿音頭を子供たちに教えてくださったりとか、寒天作りを手伝ってくれたりとかそういった実際に体験ができる触れ合える学習というのは、出来る限り残していきたいと思っておりますが、一つ一つの授業の中身の変更とか縮小というのは、若干出てくるかなと。ただ事業そのものはなくさない方向でやっていきたいなと思っておりますので、その辺の学校の授業が厳しくなる分その週末学習で、うまくフォローができるような体制が取れるのか、また公民館の生涯学習の位置づけの中で、8月はあまり公民館の利用がないので、そこで子供向けのものできないのかとか、そういった組み合わせの中で、うまくやっていけたらなというふうに思っておりますので、若干の修正変更があると思っておりますが、事業自体は継続していきたいと考えております。

委員長

大変でしょうけど、いろいろとお考えいただいて、教員が少ない分手が足りないんだとよく聞きますんで、その辺人員が増やせるかどうか、そういうことも検討していただいて、教える方が多ければ、教わる方もそれなりに、いろいろなことを、決められた時間内にできるだろうと思っておりますので、是非今言ったようなことの手続きを検討していただきたいなと思っております。ほかになければ、その他ということで、執行部側から何かありますか。

事務局

次回の協議会の実施につきましては、決まり次第ご連絡するということですのでよろしく願いいたします。

委員長

なければ長時間にわたり慎重審議いただき、ありがとうございました。これもちまして会議を終了したいと思います。ご苦労様でした。